

沢根スプリング②

「(バネの受注生産で)世界最速工場になる」。沢根スプリングは長期経営計画「2020年ビジョン」でこう掲げている。目指す姿は特注品のバネを受注当日に生産し、発送する体制。現在の最短2日でも

業界ではかなり早い。即日は常識では考えられない挑戦だ。

多品種に対応

同社が扱うバネは線径が0・1ミリの13種類。コイルを巻く大きさや形状、長さなど数多く取りそろえている。圧縮バネは1294種類、引張バネ573種類、ねじる力をもとに戻すねじりバネは324種類の標準品を用意。板バネ、耐

世界最速工場目指す



熱バネなどもある。

即日生産・発送をまず目指すのは、比較的構造が単純で受注数量が10個以内の少量タイプ。標準品に似た

熱バネなどもある。即日生産・発送をまず目指すのは、比較的構造が単純で受注数量が10個以内の少量タイプ。標準品に似た線材を巻き、さまざまな形

少しでも早く納品するために現場の改善を進めている

形状だが、長さや幅などの寸法が微妙に異なるバネが欲しいという需要に 대응する。

全工程見直し

同社には無人で連続自動運転ができる最新のバネ量産設備もあるものの、こうした多品種少量生産を可能にするのは、人間の手法。年代物の汎用機を用いて作業者が独自に作成した治具を使って線材を巻き、さまざまな形

状態のバネに素早く仕上げ。沢根が描くのは「機械ではなく、人が主体の生産現場」。08年秋のリーマン・ショック以降、社内で「職人養成プロジェクト」を立ち上げ、若手社員への技能伝承にも取り組む。

検査、梱包を行う仕組み」と沢根はもくろむ。現在はまだ一部の生産ラインでしか導入していないが、今後全社に展開する方針。14年には大卒の新人女性社員を検査・梱包作業に配置し、活躍してもらう予定だ。

同社には無人で連続自動運転ができる最新のバネ量産設備もあるものの、こうした多品種少量生産を可能にするのは、人間の手法。年代物の汎用機を用いて作業者が独自に作成した治具を使って線材を巻き、さまざまな形

世界最速を実現するため受注から生産、梱包、発送まですべての工程を見直す。なかでも社長の沢根孝佳が期待するのが10年に始まった「生産ラインのすぐ近くで受注の確認、生産指示、

14年夏をめどに生産販売システムも刷新する。投資額は約5000万円。販売会社のサミニ(浜松市南区)も同時にシステムを更新し、互換性を高める。さらに工場ではバネ材料の梱包を外して生産ラインの横に置き、無くなったらすぐ取り付けられるようにするなど「細かな改良の積み重ね」(同)で、世界最速の実現を目指す。(敬称略)

人が主体、改良積み重ね

従来は発注書が製造部長の机で留まったり、生産したバネを検品・梱包作業場まで運ぶ必要があったりして時間のロスが多かった。「現場でこれらの作業をすれば時間のロスが減らせ

実現を目指す。(敬称略)

